

	課題分析	授業改善策
国語	○課題に対して真面目に取り組み、積極的に発言できる生徒が多い。 ○要旨や主題をまとめ、さらに自分の考えや思いをまとめることについては、練習が必要である。 ○漢字や文法事項に苦手意識をもつ生徒が多く、語彙力に課題が見られる。	○要旨や主題をまとめたり自分の考えや感想、授業の振り返りを書いたりする時間を設け、考えを書くことへの抵抗感を減らす。そして、伝えたいことを論理的に表現する力を育てる。 ○漢字や文法事項は定期的に復習を行い、語彙を増やすため、プリント等で定着を図る。 ○ICTを利用し、多様な文章や考えに触れ、対話や交流を通して自分の考えを広げ、深めるようにする。 ○文章に主観的に向き合うのではなく、客観的・批判的に捉え、言葉による見方・考え方を豊かにするように課題設定をする。
社会	○都道府県等の一問一答の正答率が高いものの、それらも含め、長期的な定着にはつながっておらず、全体的に基礎的な知識の習得に課題が見られる生徒が多い。 ○グラフ・写真等の資料を読み取り、思考を深める力に課題があり、苦手意識をもつ生徒が多い。 ○自分の考えを記述することはできていても、そこに具体性や論理性が伴っている生徒が少ない。 ○互いに教え合う等、意見交流の時間においては積極的な交流が見られる。	○単元ごとに小テストを実施する等の工夫をし、細かな振り返りと定着に向けた取組を行っていく。 ○ICTやワークシートで様々な資料を提示し、それらの読み取りや、それらを踏まえた発問を授業の中で取り入れる。 ○今年度から導入しているループリックの見方について再度確認し、生徒たちがそれに沿って、学習のまとめを行うことで、具体性や論理性のある考えを記述できるように促していく。
数学	○基礎的・基本的な「知識・技能」の習得については、課題のある生徒が多い。 ○「数学的な見方や考え方」を伸ばす指導の工夫が必要である。 ○自主学習の教材については取り組むことができるが、積極的な反復練習や理解までには至っていない生徒が多い。	○小テストや単元テスト、定期考査を通じて、生徒のつまづきを発見し、授業で取り入れる問題を精査する。 ○単元ごとに実施している「振り返りシート」を通じて学習内容の理解度を把握し、継続して主体的に学習に取り組めるように促す。また、自主学習にどのように取り組めばよいのかを適宜指導する。反復練習を通じて、理解を深化させていけるように促していく。 ○習熟度に応じて、発展的内容を取り入れる。1つの課題を深く検討する時間を設けるだけでなく、類題等にも触れる中で思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫をする。
理科	○定期考査の結果から化学反応式の正答率が低く、また生徒アンケートでも「苦手である」と答えた生徒が多い。 ○領域別診断テストの結果から、1年生の定期考査ではできていた問題の正答率が低い。また、複数の知識を組み合わせた問題の正答率も低い。このことから、深い理解ができていないことや既習事項を活用する力が弱いことが考えられる。	○原子や分子の概念を再度確認し、深く理解させるとともに、定期的に化学反応式を学習させる。 ○授業の中で自ら説明させるなど、知識を深く身に付ける取組を行う。また、既習事項を活用する場面を授業で取り入れたり、生徒自身に手順を考えさせる実験などを取り入れたりすることで、考える力を養う。
音楽	○意欲的に音楽活動に取り組める生徒が多い。歌唱では、歌う気持ちはあるが、まだ発声法が十分身に付いていない生徒が多い。 ○楽譜に書かれているリズムを捉えることに難しさを感じる生徒が多い。	○身体の使い方や呼吸の仕方などを、丁寧に繰り返し指導して、体得させる。特に男声の発声では、9月にゲストティーチャーを招聘し、学ぶ機会を設ける。 ○歌唱や器楽の学習時にもリズム読みを繰り返して行うことや、2拍のリズムパターンを覚えるなどのリズム学習を組み込み、リズムの読譜力が付くようにする。
美術	○創意工夫し粘り強く表現活動に取り組むことが苦手な生徒がいる。また、どのように表現すべきかと考えるあまり、制作が止まってしまう傾向が見られる。	○一人一人への丁寧なアドバイスと、一方で課題を単純化したり、別のことをやったりする生徒には、美術に対する興味がなくならないよう見本を示したり、取り組みやすい内容にしたりする。

保健体育	○技能の習得に向けて、粘り強い取組が見られる場面が少ない。 ○学習ノートの問いに対して、具体的に記述をすることが苦手な生徒が多い。また、妥当性のない文章になっている生徒が多い。	○イメージが湧くように、見本となる動画を見せたり実際に教員が見本を見せたりする。ポイントを場面ごとに分解して、少しでも分かりやすくなるように工夫する。 ○授業の終わりにどのように記入すればよいかを口頭で伝える。次の授業の始めに、記述について良い例と良くない例を紹介する。また、文章の書き方についての指導も行っていく。
技術・家庭	○意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。 ○対話的・協働的な活動に、積極的に取り組むことができる。 ○発展的な課題に対して、深く考えたり表現したりする方法を難しく考えてしまい、活動を止めてしまう傾向がある。	○ICTの活用や体験的な活動の設定で、興味関心を高め、さらに主体的な態度を育成する。 ○資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、理解が技能につながる支援をする。また、繰り返し声をかけるとともに、時間設定を工夫する。 ○対話的・協働的な活動の中で視野や考え方を広げ、様々な情報を得た上で知識を活用する力を伸ばす。 ○課題解決までの思考過程を明らかにし、個々に応じた指示、助言、補助を行う。
外国語（英語）	○意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。 ○会話テストでは単語で答えることはできるが、主語・動詞がそろった完成文で答えることに困難さを感じている生徒が多い。 ○覚えている既習のフレーズや単語が咄嗟に出こない。	○英単語や熟語の基礎基本を定着させていく。 ○A L Tとの会話テストをできるだけ取り入れていく。英語で文章を作る練習を日々の授業に入れていく。 ○授業で既習文法を使用する機会を意識的につくり、単語ではなく文章で答えるよう練習させる。